

- 問1 沖縄県は九州の南方に位置し、日本の他の地方と比較して緯度が低いという特徴があります。このような地理的条件によってもたらされる「年間を通じて温暖な気候」や「美しいサンゴ礁」といった自然環境を最大限に活用し、県の経済において最も高い割合を占めている産業はどれですか。 (2026年 福岡県公立入試 類似)
- 観光業やサービス業を主体とする第三次産業
 - 先端技術の開発や情報通信に特化した第四次産業
 - 農業や漁業を主体とする第一次産業
 - 重化学工業や加工貿易を主体とする第二次産業
- 問2 火山活動によるエネルギーを利用した発電方式が、日本の九州地方で盛んに行われている理由と、そのエネルギーの性質について説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 千葉県公立入試 類似)
- 広大な平野部にパネルを設置し、日照時間の長い太平洋側の気候を活かして昼間の電力を賄う性質を持つ。
 - 沿岸部で発生する強い海風を風車で捉えており、二酸化炭素を全く排出しない性質を持つ。
 - 急峻な山地を流れる河川の落差を利用しており、雨の多い季節に発電量が最大になる性質を持つ。
 - 活火山や温泉地が多い地形的な背景を活かしており、天候に左右されず安定した電力供給が可能であるという性質を持つ。
- 問3 九州地方の気候について、福岡市と宮崎市の降水量の特徴を比較した説明として最も適切なものはどれですか。 (2023年 福島県公立入試 類似)
- 福岡市は夏に雨が極端に少なくなる瀬戸内の気候の特徴を持つが、宮崎市は黒潮の影響で冬でも降水量が減らず、一年中多雨である。
 - 宮崎市は冬の季節風の影響で12月・1月に降水量が最も多くなるが、福岡市は年間を通じて降水量の変化が少なく、常に一定の雨量がある。
 - 宮崎市は福岡市に比べて年間の総降水量が少なく、特に夏から秋にかけては乾燥した晴天の日が続くため、水不足になりやすい特徴がある。
 - 福岡市は梅雨の時期である6月・7月に降水量のピークがある一方で、宮崎市は台風や季節風の影響を受け、夏の降水量が月間600mm近くに達するなど非常に多い。
- 問4 鹿児島県などの南九州に広がるシラス台地では、一般的な地域の井戸が約6メートルから10メートル程度の深さであるのに対し、約64メートルもの深さがある「深井戸」が掘られてきました。このように極端に深い井戸が必要とされた理由として最も適切な説明はどれですか。 (2024年 福井県公立入試 類似)
- 関東ローム層と呼ばれる粘土質の層が厚く、地表付近の水の浸透を妨げているため
 - 花こう岩の地層が地表近くまで迫っており、岩盤の隙間にあるわずかな水を確保するため
 - 台風による塩害を防ぐため、海水の混入しない深層の真水を確保するため
 - 地表を覆う火山噴出物の層が極めて水はけ良く、地下深くの帯水層まで掘り進める必要があるため
- 問5 ある都市の気象統計において、6月や7月の梅雨の時期に降水量が多く、さらに9月に台風の影響で年間最大の降水量のピークが見られる気候的特色を持つ都市はどこですか。また、その主な要因は何ですか。 (2023年 岡山県公立入試 類似)
- 周囲を高い山々に囲まれた盆地であり、年間を通して降水量が非常に少ない長野市
 - 太平洋からの季節風が九州山地に遮られることや、台風の通り道となることが要因である宮崎市
 - 南西諸島に位置し、年間を通して気温が高く、梅雨の時期が本土より早い那覇市
 - 日本海を流れる対馬海流の影響を受け、冬の降水量が夏よりも多くなる福岡市
- 問6 九州南部に広がるシラス台地は、その土壌の性質から水持ちが悪く、かつては稲作を行うことが困難でした。このような自然環境を背景に、この地域で特に発展した農業の形態として最も適切なものはどれですか。 (2020年 鹿児島県公立入試 類似)
- 果樹園でのリンゴ栽培と、大規模なブドウの生産
 - 冷涼な気候を利用したレタスやキャベツの高原野菜栽培
 - サツマイモや茶の栽培、および豚や肉用牛の畜産
 - 水に恵まれた環境を活かした二期作による稲作
- 問7 福岡県を訪れる外国人観光客の統計を確認すると、韓国からの宿泊者数が中国からの宿泊者数の3倍以上に達しています。このような特色が見られる主な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)
- 九州地方では中国との貿易が禁止されており、観光客の受け入れを制限しているため
 - 九州新幹線の開通により、東南アジアから陸路での入国が容易になったため
 - 福岡県内にアジア最大の国際ハブ空港があり、欧米からの直行便が集中しているため
 - 博多港と韓国の間国際定期航路があり、地理的にも非常に近接しているため
- 問8 沖縄県の産業構造において、製造業などの第二次産業の割合が低く、サービス業や小売業などの第三次産業の割合が突出して高い理由として、最も適切なものを選択してください。 (2019年 愛媛県公立入試 類似)
- 広大な平野を利用した機械化農業が推進され、農産物の加工から販売までを行う第六次産業が製造業に代わっているため。
 - 亜熱帯の気候や独自の文化を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、観光関連産業が県の経済を支えているため。
 - 政令指定都市を中心とした都市圏が形成され、情報通信技術 (ICT) 関連の製造工場がすべて県外に移転したため。
 - 県外からの輸送コストが高いため、原材料を輸入して製品を輸出する加工貿易型の工業が全く発達しなかったため。
- 問9 人口増減率がプラス〇点四七パーセントを示している沖縄県の産業構造について、統計資料から読み取れる特徴を説明したものとして、最も適切な記述を選びなさい。 (2024年 山形県公立入試 類似)
- 製造品出荷額は全国的に見て低い水準にあるが、温暖な気候を活かした畜産業などが盛んである。
 - 人口増加に伴い、自動車産業などの重化学工業が急成長し、製造品出荷額が九州地方で最大となっている。
 - 広大な平原を利用した大規模な機械化農業が中心であり、製造品出荷額も全国トップクラスである。
 - 海面漁業の漁獲量が国内最大であり、それに関連する食料品製造業の出荷額が県内産業の半分以上を占める。
- 問10 東京都中央卸売市場におけるピーマンの月別出荷状況を見ると、1月から5月にかけては宮崎県や高知県からの出荷が市場の大半を占めていますが、夏場になると岩手県や茨城県からの出荷が増えるという対照的な構造になっています。宮崎県や高知県が、冬から春の時期に多くのピーマンを出荷できる背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 大分県公立入試 類似)
- 冬の温暖な気候とビニールハウスを活用し、成長を早めて出荷時期をずらしているため
 - 広大な平野で機械化を進め、一年を通じて季節を問わず露地栽培を行っているため
 - 大消費地である東京までの輸送距離が短いため、冬場の寒さによる鮮度の低下を防げるため
 - 夏の涼しい気候を活かし、本来の収穫時期よりも大幅に遅らせて出荷しているため
- 問11 阿蘇山などで見られる「カルデラ」が形成される仕組みについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 愛知県公立入試 類似)
- 大規模な噴火によって地下のマグマが放出され、空洞になった山頂部が崩れ落ちることで形成される。
 - 地殻変動によって山脈の一部が激しく隆起し、その周囲が相対的に低くなることで形成される。
 - 火山から吹き出した火山灰や軽石が、長年にわたって周辺の平地に厚く降り積もることで形成される。
 - 波の浸食作用によって海岸の岩場が削られ、さらに地盤の沈降によって複雑に入り組んだ地形として形成される。